

建築物名称	スルガ銀行富士吉原支店
受付日	令和3年3月25日
建物所在地	静岡県富士市南町3646-8・9・21・29・40・41の各一部
構造規模等	鉄骨造／地上2階／延床面積869.73平方メートル／新築
建物用途区分	事務所
建築主	スルガ銀行株式会社 代表取締役 嵯峨 行介
設計者	大和ハウス工業株式会社沼津支店建築一級建築士事務所 大藪 真揮
工事完了予定日	令和3年9月24日

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	スルガ銀行富士吉原支店	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市南町3646-8・9・21・29・40・41の各一部	構造	S造
用途地域	近隣商業	平均居住人員	60人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2021年2月12日
敷地面積	938㎡	作成者	大和ハウス工業株式会社 大敷真揮
建築面積	432㎡	確認日	
延床面積	870㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 天井高確保や建材の選定など居住者の快適な環境確保に努めるとともに、植栽を設け省エネルギー器具を採用するなど地球環境に配慮をした計画を行なった。		<b>その他</b> 特に無し
<b>Q1 室内環境</b> 昼光率を確保するとともに、建築基準法規制対象外建材を使用するなど室内環境の向上に努めた。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室の天井高2.9m以上を確保し、執務スペースに対して十分なフレッシュスペースを計画した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物高さなど周辺のまちなみにバランスよく調和させ、植栽を設けることにより良好な景観の形成を行なった。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> =0.75、BEI <sub>m</sub> =0.68	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 省水型器具を採用するなど積極的に省エネルギーに努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 適切な量の駐車、駐輪スペースを確保し、出入口を2か所設けることにより、利便性の向上および渋滞緩和に考慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	スルガ銀行富士吉原支店	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5			ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5			がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5			ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5			がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.7	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</li> <li>④外壁はALCパネルを採用。 主要な配管用途上位2種以上にB以上を使用し、Eは不使用。</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>⑥ピロティ等の水平投影面積率を敷地面積に対して30%以上確保。</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</li> <li>⑧ハイサイドライトの採用。</li> <li>⑨LED照明の採用。</li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</li> <li>⑪節水コマ、省水型機器の採用。</li> <li>⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能となる施工方法を用いるとともに再利用可能なOAフロアの採用。</li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</li> <li>特に無し</li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</li> <li>特に無し</li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	2.8	
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</li> <li>⑳階高4.0mを確保。</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> <li>㉑ピロティなどの空間を設け、雨宿りなどに供するなど都市空間の活動上のアメニティに配慮。</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.4		
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上)</li> <li>㉒建物形状を周辺のまちなみにバランスよく調和させ、植栽により良好な景観を形成。</li> <li>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善)</li> <li>特に無し</li> </ul>	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑳ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ㉕ 温熱環境悪化の改善	2.5		